

教職の魅力を立体的に捉える試み

青柳 敦子（山形県立長井高等学校長）

1. プラットフォーム会議の魅力

教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加させていただいて3年目となりました。メンバーの一人である樋渡委員とも「一年で一番楽しみな会議ですね。」と語り合いながら参加しています。この会議が何故楽しいのか？考えてみました。それは、30年以上も教育界に身を置いている自分からすれば当たり前と捉えがちな教職の魅力を再発見する機会を与えてもらっているからだと感じています。さらには、構成メンバーが、大学、教育行政、学校のみならず、学びの主体である高校生や大学生も含まれており、それぞれの生の声を聞くことができ、毎回、新鮮な気づきがあるからです。会議自体が「学びの場」になっているのかもしれない。そして、会議で出された意見やアイデアから、今度学校でやってみようというヒントをもらえる。だから楽しい！

2. 3つの捉え直し

教職の魅力創造プロジェクトでは、3つの事業が展開されています。

(1)小学校教員体験セミナー (2)聞き書きプロジェクト (3)学びのフォーラムです。

これらの事業が、教職の魅力を立体的に照らし出しています。

- (1)「小学校教員体験セミナー」では、教員を志望している高校生が山形大学の学生と一緒に小学校の授業を参観します。事前オリエンテーションで、どのような切り口で児童や先生を観察すればよいかについて学んだ上で臨みます。日頃、黒板を前に授業を受ける側からしか見ていない風景を、授業をする側、授業を受ける児童の側から俯瞰することができます。「授業」の捉え直しです。
- (2)「聞き書きプロジェクト」では、教職を目指す大学生が、自分が憧れる恩師にインタビューし、その内容を書き起こします。恩師が語るエピソードから、今までは気づけなかった恩師の思いや覚悟がくっきりと浮かび上がって来ます。「教師」という職業の捉え直しです。
- (3)「学びのフォーラム」では、佐伯胖先生の『「わかり方」の探究』という本を読みながら、「学ぶとはどういうことか？」という究極の問いに、高校生、大学生、社会人がそれぞれの立場で自由に意見を出し合いながら迫っていきます。「学び」の捉え直しです。

これら3つの事業による捉え直しによって、「教職の魅力」がプロジェクション・マッピングのように、鮮やかに映し出されます。何とも素晴らしい仕掛けです。

一人でも多くの志ある高校生や大学生に参加してもらい、彩り豊かな教職の魅力を体感し、是非教師を目指してもらいたいと願っています。